

# なきごえ



1985

11

大阪市  
天王寺動物園協会



# 動物園グラフ

## “リックイーはわんぱくざかり”

今年6月に入園したチンパンジーのリックイーは現在2歳7ヵ月、人間でいえば小学生ぐらいでしょうか。このわんぱく坊や、リックイーの横顔をご紹介します。



昭和58年3月8日、静岡市立日本平動物園で生まれました。母親が世話をしないため、人工哺育で育てられました。リックイーの名の由来は著名な人類学者リックイー博士からとったそうです。(写真は生後3日目：日本平動物園提供)



背中をむけるとすぐにオンプ。まだまだ甘えんぼうです。



対話のひとつ

## 9・10月の動物園日記

- 9 / 11. 2羽目のヤブシチメンチョウがふ化しました。  
マキゲテンジクネズミ(雄5頭、雌10頭)を北京動物園に贈りました。
- 9 / 12. 川崎市夢見ヶ崎動物公園よりシマスカンク1番の寄贈を受けました。  
タスマニアデビルに脱毛が見られるため、栄養補給を始めました。
- 9 / 13. 今年5月21日にふ化したコブハクチョウ6羽の性別鑑定、断翼、足環装着を行ないました。

- 9 / 16. 今月初旬ふ化予定のオウサマペンギンの卵を親から取り上げました。その卵にはヒビが入っており、内容は全く入っていませんでした。
- 9 / 17. インドゴジャコウネコが来園してはじめて出産しましたが、初出産のためか、3頭すべて死亡してしまいました。
- 9 / 19. ベンガルトラの雄(ルイ)が急性腸炎で死亡しました。
- 9 / 20. ヒメコンドルの1羽が、自分の胸をクチバシでつき筋肉の損傷がひどいため、入院治療することになりました。  
秋の動物愛護週間が始まり、無料動物相談



右手の手形(実物大)

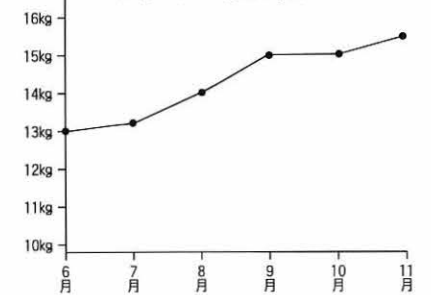


手袋をおもちゃにして屋外での運動



男ぶりはまずまず、将来が楽しみですネ。

リックイー体重表



- も、本日より一週間毎日開設されました。
- 9 / 21. 保護されていたカッコウ1羽が元気を回復したため放鳥しました。
- 9 / 22. シロカケイ(雄1羽)とミミキジ(雄1羽、雌2羽)を神戸市立王子動物園より寄贈を受けました。
- 9 / 23. ラマの“ホワイティー”が1頭出産しました。哺乳も間もなく確認され母子ともに元気良好です。  
動物総合感謝祭が行なわれ、動物代表として、チンパンジーの“リックイー”(2歳7ヵ月、雄)が参列し玉串をささげました。
- 9 / 26. 動物愛護週間が終わりました。

- 9 / 28. タスマニアデビルの雌“ミミ”が発情のためか、雄の“クロペー”が盛んに後を追いまわすようになりました。
- 9 / 29. タスマニアデビルの“クロペー”が“ミミ”を抱いて離しません。  
第4回動物のお話とスライドの会「タスマニアデビルの話」が行なわれました。
- 10 / 1. ボイラーの火入れ式を行ないました。
- 10 / 2. エランド“ミサキ”の出産が近そうです。
- 10 / 3. ラマの雄1頭を上海動物園に贈りました。
- 10 / 6. 冷房舎のペンギン3種を屋外に出しました。
- 10 / 8. シベリアオオカミが3頭生まれました。

# じょうずに見んと、動物に悪いで

山下 諭

先月、東京の後楽園の切符をもらって、巨人と大洋の試合を見ました。ぼくは巨人ファンでも大洋ファンでもないのですが、野球は大好きだし、もらったのがボックスシートの切符なので、ムダにはもったいないと、無理やりに時間をつくって出かけたのです。席が一塁側だったので、ぼくのまわりのお客さんたちは、まず全員が、熱心な巨人ファンようでした。その日は、巨人が大洋に二連敗したあとの三戦目で、しかも巨人のリーグ優勝がかなりあぶなくなっていたときなので、まわりの巨人ファンたちは相当に殺気だっていました。

どのインニングだったのかは忘れたのですが、ぼくは、すぐうしろに小学校の上級生くらいの男の子とその母親らしい、妙なふたりづれがいるのに気がきました。妙なというのは、その親子らしいふたりづれが、巨人の吉村クンがバッターボックスに立っているときに、「シーノヅカ！ シーノヅカ！」と、かん高い声をはりあげていたからです。やがてぼくは、そのふたりづれが、巨人の選手たちの名前をろくに知らないことを発見しました。クロマティ以外の左バッターは、みんな「シーノヅカ」になってしまうし、中畑クンがボックスのときに、「ターツノリ！」とわめくのです。

巨人ファンのわる口をいうわけではないけれど、だいたい巨人ファンには、ただ巨人軍が好きだけで、野球のことはちっともわからない……そんなタイプがどうも多いようで、だから、このふたりづれみたいなトンチンカンなファンがいても、べつに驚くことはないのですが、こんな声援が耳にはいつてきたのでは、吉村クンも中畑クンも、多少なりとも力がぬけてしまうのではないのでしょうか。

大阪に多いはずの阪神ファンには、まさか、掛布クンと岡田クンの区別がつかないひとはいないでしょう。しかし、動物園のお客さんのなかには、残念ながら、掛布クンと岡田クンの区別がつかないようなひとが、意外に多いようなのです。

\* \* \*

東京の上野動物園で、こんなシーンを見かけたことがあります。これは、三つくらいの男の子と、お母さんらしい女のひととのふたりづれでした。ちょうどアライグマのケージのまえへさしかかったとこ

ろで、その女のひとは、「そーら、タヌキさんだ、おかしな顔だねえ」と、子どもに説明したのです。



タヌキの群

その女のひとのほうが、ずっとおかしな顔だったけれども、それはまあいいでしょう。やがて、ケージのまえをすぎようとして、女のひとは、「アライグマ」と書かれたラベルに気づきました。そしてすぐにさっきの説明を訂正したのです。

「なんだ、タヌキさんじゃなかった、クマさんだった。ちっちゃなクマさんだねえ」



アライグマの親子

アライグマは、アライグマ科の動物です。タヌキはイヌ科、クマは、ツキノワグマも、ヒグマも、ホッキョクグマも、みんなクマ科に属

しています。動物分類学でいえば、アライグマ科もイヌ科もクマ科も、いずれも食肉目のメンバーで、だから近縁の仲間たちといえはいいのですが、それでも、おなじ阪神というチームのなかの、掛布クンと岡田クンくらいの違いはあるのです。

タヌキとアライグマなら、少し慣れれば、たとえ顔が見えなくても、背番号の違いで掛布クンと岡田クンを区別できるように、かんたんに見わけること

ができるはずですが。アライグマのしっぽには、黒いリング状の模様がついてるし、歩くときには、タヌキと違って、足の裏を、かかとまでべったり地面につけています。

少しばかり似ているからといっても、タヌキに間違えられては、アライグマもおもしろくないでしょう。

\* \* \*

動物園をじょうずに楽しむための、コツのひとつは、動物について、できるだけ知ることだと思います。たしかに動物園は、よくいわれるように、動物たちと親しむところでしょう。しかし、動物たちのことをちっとも知らずに、ほんとうに動物たちと親しめるのかどうか、ぼくは疑問だと思うのです。やはり、動物たちに親しむには、その準備として、ある程度は動物たちのことを知る必要があると、ぼくは考えているのです。

動物園へ出かけるまえに、本でも読んで、動物についての知識を少しばかり仕入れておくといいのですが、それができなければ、動物園についてから、園側が出してくれている情報を、とにかくちゃんと受けとることで。



ヤブシチメンチョウの説明板

動物園が提供している情報の、もっとも基本的なものは、それぞれのケージにつけられているラベルです。ラベルさえ見れば、その動物の名前はもちろん、分類学上の位置や、生息地、あるいは野生の状態での食べものなど、その動物についての基本的な情報が、ひととおりは提供されることになっています。つまり、ラベルさえちゃんと見ておけば、アライグマとタヌキを間違えるようなことは、絶対に起こらないのです。そんなのあたりまえじゃないかとお考えになる方も多いでしょうが、しかし、ラベル

をちゃんと見ないお客さんは、決して少なくないのです。

ラベルのほかにも、動物園側は、いろいろなかたちで、お客さんに情報を提供しています。説明板もあるし、この「なきごえ」のような印刷物もあります。また、ボランティアのひとたちのように、動物園の職員にかわって、お客さんにさまざまな情報を提供する役割を買って出ているひとたちもいます。

このような情報を、めんどうがらずに受けとることが、動物園をじょうずに楽しむ第一歩だと思うのです。

さきにぼくは、動物たちに親しむには、動物たちのことをよく知るのがたいせつだろうと書きましたが、動物園に出かけて、情報をちゃんと受けとりさえすれば、動物たちについて、かなりのところまで知ることができるのです。いいかえれば、動物園というところは、動物園の楽しみ方がじょうずになる方法を、動物園自体が提供している……そんなところなのです。動物園が出してくれている情報だけではもの足りなくなったら、そのときになって、さまざまな書物を利用していいでしょう。

動物園をじょうずに楽しむには、もうひとつ、動物園には、一度だけでなく、ときどき足をこぶことです。われわれ人間の暮らしぶりが、季節によってかわるように、動物園の動物たちの暮らしも、季節によってかわることが多いのです。どの動物は、どの季節に子どもをうむか、そんなことも、動物園に何度か足をこんでみるうちに、自然にわかってくるでしょう。

天王寺動物園ご自慢のカモシカ園を楽しむには、できれば双眼鏡をもっていきたいものです。ベイサオリックスやスプリングボックなど、双眼鏡で鑑賞すれば、ぐんと値打ちのあがる動物です。また、各地の動物園には、その園の売りものの動物がよくいるものです。天王寺でいえば、キーウイやタスマニアデビルなんかでしょうか。そんな動物たちは、とくに情報をよく読みとって、じっくりと鑑賞することです。

じょうずに見んと、動物ががっかりしなせ。

(作家・日本ジャーナリスト専門学校講師)

## キジ類の人工ふ化・育すうについて

はじめに、まず人工ふ化育すうについて少し説明しましょう。自然界では自らが生んだ卵は、カッコウや、ヤブシチメンチョウなどのいくつかの例外を除けば、当然自分達が抱卵し、ふ化させたヒナを育てるのが節理ですが、動物園等で飼育されている環境では、産卵しても親鳥が抱卵しないことがあります。原因は様々ですが、展示させていることが親鳥に不安感を与えていることも大きな要因ではないかと思えます。そういった卵をふ卵器を使ってふ化させることを人工ふ化といいます。利点としては、数多くをうませることができますし、自然抱卵によつての母体の消耗をさけることもできます。又、チャボなどを使って仮母としてキジの卵をふ化させる方法もよくとられているようです。天王寺動物園では、現在のキジ舎を建設する時に出来るだけ自然抱卵するように、ネズミの対策と雄キジと別居出来るように、また樹木を多く植えることによりブラインド部分を作るなどいくつかの工夫をしてみました。その結果いくつかの種においては自然ふ化の成功がみられ、親子のほほえましい姿や行動をみてもらうことができ、展示効果も高めることができました。しかし、多くのキジはまだ人工ふ化にたよるざるをえません。

さて今年も3月中旬～次々とキジ類の産卵が始まりましたが、様子を見て、親キジが抱卵しそうなものがないのが、ふ化育すう担当の私達のところに回ってきます。そこで、それらの卵を計測しふ卵器に入卵し、ふ化させ、育てるのが人工ふ化育すうという私達の仕事です。もう少し詳しく説明しますと、キジ類飼育担当者から一週間に一度位の割合で、種類と産卵日を卵の表面に記入したものをもってきます。私達はさらにそれらの卵重と大きさを測定し全て台帳に記録します。ふ卵器に入れるのは一週間に一度位にして、(種類によってふ化日の違いがありますが)ふ化日のある程度そろえることができ、育すうにもやりやすくなります。ふ卵器の温度はキジ類では平均37.6℃で、湿度も60%位を保つようにしてあります。全て器械がやるのなら簡単なように思われますが、実は大変時間と手間のかかる仕事でして、毎日、全ての卵重を計測し減少経過をみて、その間一時間程の放冷を行います。放冷とはふ卵器にいらした卵を外気にさらすことにより、卵に刺激をあたえ、強いヒナを生むため必要なことで、(自然抱卵においては親キジが採食等のため一時巣からはなれる)ツルなどでは、わざわざ冷蔵庫に入れられたりするようにです。放冷が十分でない、予定日よりも卵を割れなかったり、ふ化後起立できないヒナが生まれたりする原因の一つになるようです。

今年3月25日から9月17日まで、約半年間に渡り運転しましたが、4月中旬以降になると最初のヒナはもう誕生してきて、それらを育すうしなければならぬし、毎日の測定、検卵、それに一週間分20個位の卵の測定と入卵と続くと、いよいよそがし

くなってきました。そして、この半年間に入卵した数は、一部ガンガモの類もありますが、総数380個にもなりました。ふ卵器の大きなアクシデントとしては、7月下旬から8月9日にかけての暑い日が続いた時に、ふ卵器が外気に影響され、37.6℃にセットしていたものが昼間40℃をこえるという事態が起こったため、サーモスタットを常に調整したり、ふ卵器のトビラを少しあけておくなどしなければならず、逆にそのため朝には35℃までふ卵器の温度が下るなどして、ニホンキジやカムリウズラの起立不能の弱いヒナを誕生させた原因になったのではないかと考えています。

次に人工ふ化させたいいくつかのキジについて詳しく書いてみます。

### ○セイラン

セイランは実に12年ぶりの成功で、このキジのおもしろい特徴は産卵のサイクルです。まず最初は4月4日と6日に計2個を産卵し、次に5月15日、17日と同じく2個、最後に7月10日、13日とこれも2個しか産卵しません。こんな産卵の仕方は他のキジ類ではみられず、普通2個の卵を産むツルの仲間でも取りあげれば続けて産卵するようですが、セイランはそのようなことはなかったようです。6個の内5個は有精卵で全てふ化しましたが、2回目の2羽は新しい育すう器を使用し、温度管理がうまくいかず、一時期最低温度が低すぎたため、10日程で2羽共死亡させてしまったのが残念です。



ふ化したばかりのカムリウズラのヒナ

### ○カムリウズラ

たった2羽のメスが4月下旬～9月上旬にかけて休むことなく130個以上もの産卵をしています。小さな体でよく続いたものと思います。有精卵の率も高く、多くヒナをふ化させることができました。そして例年ウズラはふ化後2～3日の間に死亡することが多いと聞いていましたが、当初はやはりなかなか成育しませんでした。何に原因があるのかと考えてみたところ、ふ化後1～2日はふ卵器の中で餌付けして、その間は元気にしているのに、育すう器に移すとたんにフラフラしだして死んでしまうので、これは、育すう器の温度に問題があるのではと思いました。育すう器はふ卵器と同じように安定した温度を維持できないようで、よくみると、38～33℃位まで差があるのが分かり、これではもたないのでは

ないかと、最高を40℃まであげて熱ければ自分ではなれるだろうと判断し、ためしてみたところ、一週間以内に死亡する個体はいちじるしく少なくなり、一つの問題は解決できたことと思っています。しかし、このトリは非常におくびょうで、環境の変化に弱く、大きくなり少し大きめの育すう器に移すなどするだけで、その日のうちに死んでしまうなど、もろいトリのようにみうけられます。それでも率は悪いものの数多く成育させることができました。(9月頃書店で立ち読みした養鶏関係の本でウズラのことを書いた専門書を見るとふ卵器の温度を40℃にすると書いてあり、もっと早く見ていたらと後悔しています)



### ○ニジキジ

このキジも久しぶりの成功です。有精率も悪くなく、はしあげまでは順調にいくのですが、ヒナの活力が弱いのか、まる一日たってもなかなか自力で卵を割ることができず、少しずつ手をかけて割ってやるのですが、少し無理をすると出血し弱って死んでしまうこともありました。それでも自力でふ化した個体もあって、あるいは放冷時間を多くしたことが

よかったのかもしれないと思っています。

### ○ハッカ

これ程有精率が高く、又、ふ化も簡単にするし、なんの苦勞もなかったキジはありません。

### ○ニホンキジ

たった一羽のメスで5月中旬～9月中旬にかけて63個も産卵しています。まるでニワトリなみです。でも有精卵は約半位で、特に7月下旬以降は全て無精卵でした。又、起立不能などの虚弱なヒナもいくつかみられました。

### ○コサンケイ

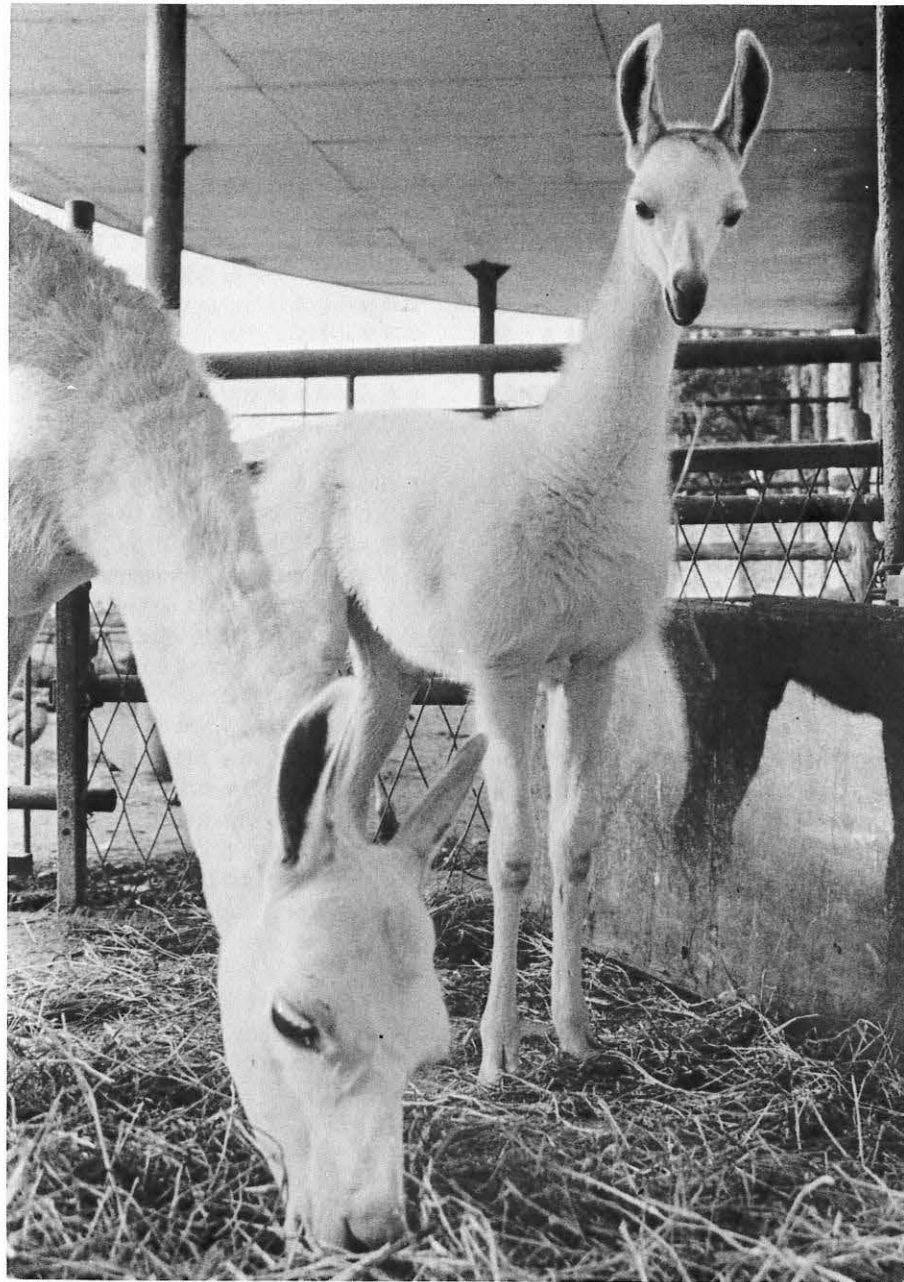
3羽のメスで32個産卵しましたが、全て無精卵でした。オスに問題があるのかもしれませんが、来年以降に期待してみたいと思っています。

最後に、キジ類の人工ふ化育すうの仕事は以前から興味があり、やってみたいと思っていたのですが、初めてやってみて、常に細かい気くばりを必要とされる大変な仕事でした。しかし、毎日のように新しい命との出会いは、新鮮な感動を生み、実にやりがいがあったといえます。有精卵を多く生ますのにはキジ類の担当者の努力のたまものですが、私達も幾分かの役目は果たせたことをうれしく思っています。今後、希少キジ類については繁殖場建設の計画もあり、恒久的な繁殖をさせる努力が必要とされます。種の保存という大きな目標に向って多に研究、努力してみたいと思います。まだまだ十分な資料の分析が出来ておらず、未完成ではありますが一応のまとめとさせていただきます。

(大野 尊信・大東 孝司・榊原 安昭)

## 1985年度人工ふ化育すう結果

種名	産卵数	入卵数	有精卵数	有精率	中止卵数	ふ化数	ふ化率	成育数
インドクジャク	1	1	1	100%		1	100%	1
マクジャク	13	13	2	15		2	100	1
セイラン	6	6	5	83		5	100	3
ミカドキジ	14	12	2	17	1	1	50	1
ベニジュケイ	11	11	5	45	1	1	20	1
エボシキジ	10	2	1	50		1	100	0
ハッカ	21	21	19	90	2	17	89	17
アカヤマドリ	18	18	4	22		4	100	2
シマハッカ	19	2	1	50		1	100	1
ニジキジ	19	16	9	56	2	7	77	3
インドミノキジ	6	4	1	25	1	0	0	0
ヒオドシジュケイ	4	4	0	0		0		0
コサンケイ	32	21	0	0		0		0
チャムネシヤクケイ	6	3	0	0		0		0
シマシヤク	16	6	0	0		0		0
ニホンキジ	72	63	24	38	5	19	79	9
カムリウズラ	145	132	97	73	17	80	82	22
計 17 種	413	335	171			139		61



### “今度も女の子”

ラマのホワイトイーが、9月23日にメスの赤ちゃんを出産しました。これでホワイトイーは、58年の5月21日にセルマ、59年9月8日にチコ、そして今回のふもと、3回続きの女の子の出産となりました。

(撮影：農本 武志)

## 動物園ニュース

### § シベリヤオオカミ誕生

シベリヤオオカミの赤ちゃんが3頭10月8日に生まれました。性別はメス2頭は確認できましたが、残る1頭はまだわかりません。

両親は共に熊本動物園生まれで、一昨年の9月19日に繁殖のために借り受けたものです。8月6日に交尾は確認されていたのですが、季節はずれの9月に子供を産むとは予期していなかっただけに驚かされました。人工哺育で育ったうえに、初産だったのですが、たいへんじょうずに子供を育てています。

当園では、数種の動物を繁殖のため貸し借りしていますが、うまく繁殖につながったのは、今回が初めてです。今後ともどしどし動物園間の動物の交流を進めたいものです。

### § 次々ふ化するヤブツカツクリ

9月号でヤブツカツクリが初めてふ化したことをお知らせしましたが、その後9月11日に2羽目がふ化した後、10月に入っても7日、12日、16日、20日と合計6羽がふ化しました。7日のひなはふ化直後に死亡しましたが、残る5羽は順調に成育しており、担当者は収容場所探しで、うれしい悲鳴をあげています。まだ3卵ふ卵器に入っており、さらにふ化が期待できそうです。

### § ミミキジ、シロカケイ来園

神戸市立王子動物園のご好意で9月22日にミミキジ(別名カッシュヨクカケイ)のオス1羽、メス2羽、10月11日にシロカケイのオス1羽をそれぞれいただきました。本年4月に上海動物園から来園したアオカケイと合わせてカケイ類3種がキジ舎にそろいました。カケイの仲間は中国に生息するキジで、耳のように立った顔の羽毛が特徴的です。3種並んだ展示はなかなか見ものです。

### § ボイラーの火入式

10月1日、恒例の暖房用ボイラーの火入式が行われました。火入式には、動物を代表して、今年の6月に来園したチンパンジーの“リッキー”が出席し、ボイラーに点火しました。この日から始まったのは虫類の暖房を皮切りに、類人猿、カバなどの暖房

### 現在の飼育動物数

(1985年9月30日現在)

哺乳類	13目	112種	461点
鳥類	19目	171種	589点
爬虫類	3目	30種	57点
計	35目	313種	1,107



が、来年5月まで行なわれます。

### § 秋の動物園まつり開催

秋の動物園まつりが、10月13日から11

月4日までの日曜、祝日5日間開催されました。ステージでは午前中に大阪動物園ボランティアズのメンバーによる動物クイズと紙しばい、午後は幼稚園児による遊戯、女子大生による人形劇、手品や紙しばいが行なわれました。また、園内4ヶ所ではボランティアによるスポットガイドが行なわれ、当園獣医師による無料動物相談も行なわれました。

また、この期間に合わせて北園展示館では、食欲の秋にちなみ、「動物たちのエサ展」を開催し、ライオンから小鳥までの様々な餌を約75点展示しました。一方、南園の高架下には開園70周年を記念して「目で見る70年展」と題し、開園以来の出来事を数々の写真で紹介しました。

### § 70周年記念シンポジウム開催

10月13日、開園70周年を記念して、「動物との共存を図るために」というテーマのもとに、総合司会の兵庫医科大学教授の朝日稔先生を中心に6名のパネリストをお招きし、シンポジウムを開催しました。



あいにくの雨の中でしたが59名の方々が出席され、熱心に討論が行なわれました。詳細は今後の「なきごえ」

誌上で紹介する予定です。

### § 第5回動物のお話とスライド会

3月30日に第1回目を行なった「動物のお話とスライド会」も回を重ねて10月27日には5回目をむかえました。今回は仲谷登係員が、ペンギンの話をしました。今後の予定は、11月3日ゴリラの話、12月8日夜行性動物舎の動物の話となっています。いずれも午後1時からレクチャールームで行ないますのでご来場下さい。

### \* 休園日のお知らせ

動物園の休園日は毎月第3日曜日です。来年1月までの休園日は下記のとおりです。  
11月18日(月)、12月16日(月)、1月20日(月)。  
年末年始は12月29日～1月1日まで休園いたします。  
開園時間は午前9時30分から午後5時までで、午後4時に切符売止めになります。

ゆとり満喫、信頼のカード。



ショッピングから海外旅行まで、  
1枚のカードでワイドにご利用いただけます。  
近鉄がDCおよびVISAと提携した便利な新カード。

近鉄グループカード **KIPS**  
(キップス)

◎国内・海外のDC加盟店すべてに通用。  
◎近鉄百貨店グループをはじめ、都ホテルチェーンなどでの  
ご利用にはいろいろな特典が。



お問合せとお申込みは 各店クレジットセンターへ

●アベノ店7階●上本町店10階●東大阪店本館●奈良店4階●西京都店1階  
(京都ファミリー)

ひかりのくに

監修・阪口浩平  
指導・宮武頼夫

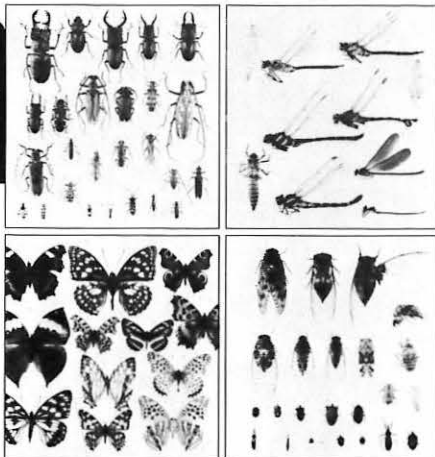
●オールカラー

**むし**  
くらしとかいかた

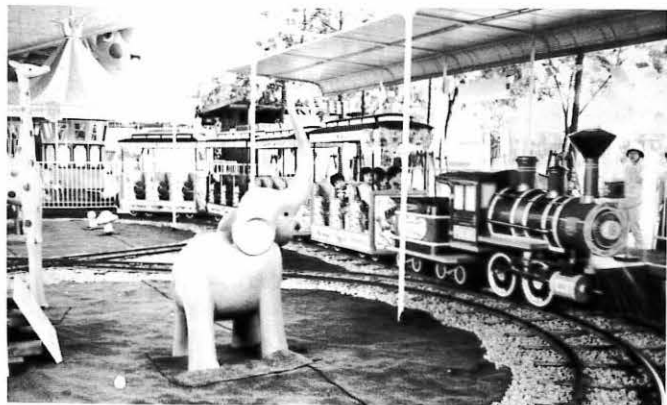
今まで、気にもとめなかつた自然の中で昆虫たちが生きている。みんなも、虫になって自然の中を歩いてみよう。きつとすばらしいことに出会えるはずだ。

85・変形 580円  
84ヘーシ

ひかりのくに株式会社  
〒543-2 大阪市天王寺区上本町3-2



たのしいのりもの、が待っています。



1人1回  
100円  
(1才まで無料)

団体割引  
(30人以上)  
……1割引

久竹娛樂株式会社  
TEL (06) 541-3112

◎園内3ヵ所(南園入口横、北園ステージ横、北園高架下)に各種のりものがあります。

世界初の最高感度

(カラープリント用フィルム)

1600 新登場!

かろうの大林

桜橋本店 ☎341-8091  
三番街店 ☎372-5031



**フジカラー HR 1600**

ISO1600/33° 135-24枚撮



- 貸出品目/ビデオ「動物園へ行こう」  
①巻・20分(10本常備)
- 対 象/保育園、幼稚園、小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸 出 料/無料(但し、郵送料450円は必要)
- 申 込 先/当協会まで、電話かハガキでお申し込み下さい。

動物観察の手引に

天王寺動物園  
ガイドブック

のご購読をおすすめします。  
(1冊¥450)園内各売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会

〒543/大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

動物文学会主宰 平岩米吉著

新刊

# 猫の歴史と奇話

(定価・2600円)  
A5判・260頁  
口絵挿画・113図

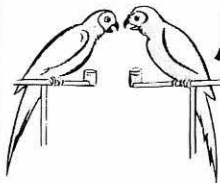
猫に関する古今東西の科学と文献を網羅し、しかも平易な文章で綴った猫の宝典。著者の三十余年にわたる収集研鑽の成果、ここに結実。

☆学術書でありながら、推理もののように愉しく読める猫の本  
☆架空の伝説は別に、猫の珍しい実話400余を収載

## 主な目次

- |                                     |                                       |
|-------------------------------------|---------------------------------------|
| 第一章 猫の歴史<br>欧州は古代エジプト、日本は宇多天皇から近世まで | 第二章 猫股伝説<br>老猫化けてさまざまな怪異をなす           |
| 第三章 猫の報恩談<br>蛇を咬んだり、金を運んだりする        | 第四章 野性猫の存在<br>裏日本の山猫、離島の山猫、鬱陵島の猫の渡来など |
| 第五章 猫の奇話(上)<br>長命、多産、三毛猫などの形態の奇話    | 第六章 猫の奇話(中)<br>長距離の帰家記録や鼠を育てるなど不思議な行動 |
| 第七章 猫の奇話(下)<br>マタタビを媚薬とする奇妙な習性など    | 第八章 益獣としての猫<br>あらゆる角度から猫の生態と効用を探究     |

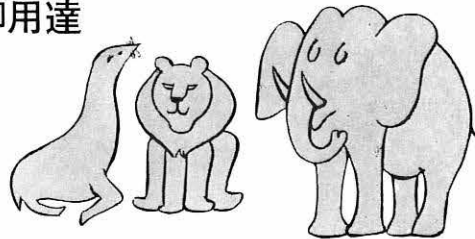
発行 動物文学会 〒152/東京都目黒区自由が丘3-12-2 電話(03)717-1659・振替東京5-9800  
発売 株池田書店 東京都新宿区弁天町43番地 振替・東京4-165425



## 鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

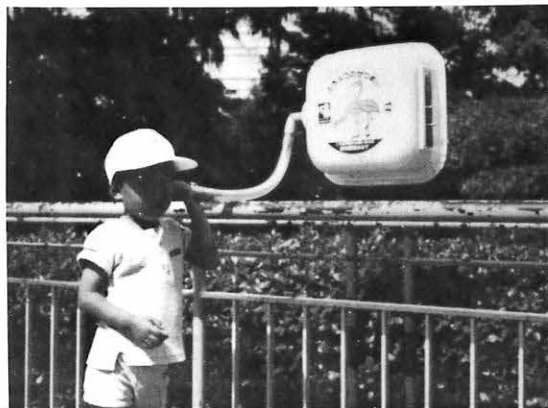
- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円



## 有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号 電話(078)221-8195(代)  
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

たのしい動物のお話は、  
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎  
30数ヵ所にあります

関西特機株式会社  
電話 06-762-2333  
1回 20円

## 動物園内での お食事、ご休憩は

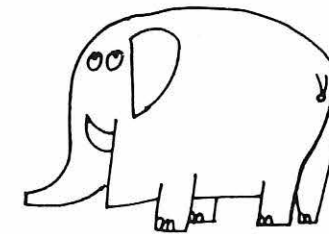
大阪市天王寺動物園内

## 中央売店

☎ (06) 771-0973



## 天王寺動物園内

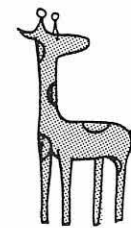


## 南園売店

代表者 松谷良子

大阪市天王寺区茶白山町6-74  
電話 (06) 771-7110番

園内での写真は…  
動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機して  
おりますので説明  
に伺いました際は、  
よろしくお願ひ致し  
ます。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせて戴きます。  
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社

TEL 06-856-7444



新鮮です、さわやかです。フルーツが入った、おしゃれなヨーグルト。



果肉とソフトヨーグルト  
の名コンビ



# 雪印ヨーグル

●ブルーベリー・キウイフルーツ・ストロベリー・オレンジ・カクテル

ペットを飼っている人にも飼えない人にも、この1冊

# ペット大図鑑

好評発売中

あらゆるペットの飼い方、殖やし方、  
治療法がひと目でわかります。

1部/犬・猫など 2部/リス・アライグマなどの小動物  
3部/金魚・熱帯魚・海辺の生きもの 4部/洋鳥・和鳥・鳩など 5部/は虫類や昆虫など、めずらしい生きもの 巻末/ペットの便利情報ガイド

●総監修/中川道朗 (大阪市天王寺動物園協会専務理事)  
●監修/浦東信夫/榎原安昭/内田 至  
石原重厚 ●編修協力/宮武頼夫

特別価格 **2,950円**  
(定価3,300円) ※送料無料

同封の専用紙または郵便局の振替用紙にて  
お申込みください。振替口座 / 大阪5-98163  
(株)グリーンアド・コミュニティ  
〒550 大阪市西区西本町3-1-46 TEL. (06) 531-0415



サイズ **AB判** (25.7×21cm)  
カラー **160**ページ・全 **400**ページ

なきごえ 昭和60年11月10日発行 (毎月1回10日発行) 第21巻 第11号 (通巻243号)

編集/大阪市天王寺動物園  
発行人/大阪市天王寺動物園協会 中川道朗  
印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共) 1年継続(12部) 1,100円(送料共)  
編集委員 (土井良彦/伊東重朗/小出雅三/樽本 勲/中川哲男/前田豊彦/宮下 実/長瀬健二郎/榎原安昭/森本委利)  
(大野尊信/山下奉之/農本武志/野口秀高/早川 篤/数野幸司/堀 弘/大川光雄)  
〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74  
電話 大阪 (06) 771-0201  
振替口座 大阪 37823